

様式1 <①調査研修費関係>

平成28年 2月10日

八街市議会議長 加藤 弘 様

会派名 やちまた21
代表者名 林 政男



先進地視察報告書

先進地視察の概要を下記のとおり報告します。

記

1. 視察者名

- ・加藤 弘
- ・林 政男
- ・小澤孝延

2. 視察期間

平成28年 1月27日(水) ~ 平成28年 1月29日(金)
(3日間)

3. 視察先及び視察目的

- (1) 1月27日(水) 鹿児島県鹿屋市 鹿屋市議会
・議会基本条例(議会報告会)について
- (2) 1月28日(木) 鹿児島県鹿屋市串良町柳谷地区(やねだん)
・行政に頼らない「むら」おこしについて
- (3) 1月28日(木) 鹿児島県志布志市
・志布志国家石油備蓄基地について
- (4) 1月29日(金) 宮崎県都城市 農事組合法人きらり農場高木
・農事組合設立の経緯と今後の展望について



4. 視察報告

(1) 鹿児島県鹿屋市 鹿屋市議会 議会基本条例（市政報告会）について

◆市の概要

鹿児島県鹿屋市は、大隅半島のほぼ中央に位置し、3市4町に接している。市域北西部は、森林生物遺伝資源保存林にも指定されている広大な高隈山系が連なり、その東側は国営第一号の畑地かんがい施設をもつ笠野原大地が広がっている。また、市域中央部には、高隈山系に源を発する肝属川が流れ、市域西部は、錦江湾に面した約19Kmにおよぶ美しい海岸線が続いている。そして、市域南部は県下の神代三山陵の一つである吾平山上陵を有する山林地帯となっている。

平成18年1月1日、鹿屋市、吾平町、輝北町、串良町が合併し、総面積448.33平方キロメートル、人口103,091人、世帯数45,304戸（平成27年4月1日現在）

◆視察時の状況

- | | |
|---------|---|
| ①視察日 | 平成28年 1月27日（水） |
| ②視察時間 | 午後 1時30分 ~ 午後 2時30分 |
| ③視察会場 | 鹿屋市役所 鹿屋市議会棟 第2委員会室 |
| ④応対者職氏名 | 鹿屋市議会 議会事務局 滝川様 |
| ⑤説明者職氏名 | 鹿屋市議会 議会運営委員会委員長 別府込初男様
同 副委員長 岡元浩一様 |
| ⑥写真添付 | |



◆視察先調査事項の概要

鹿屋市議会における議会基本条例の制定及び議会報告会について

◆調査事項に対する会派視察目的

「開かれた議会」を目指す必要があると八街市においても議会改革協議会を立ち上げ、議会改革を進めることとなったことにより、先行して特別委員会として鹿屋市議会条例を制定し、議会報告会を実施している鹿屋市議会を視察し、今後の議会改革の参考とするため。

◆市政との関連性（視察地選択の理由等）

鹿屋市議会では、平成19年10月に議会改革特別委員会を設置し議会改革に取り組んできた。この議会改革特別委員会の中では議会報告会の開催について協議がなされたが、実施には至らなかった。その後、議会内部において「さらに開かれた議会」を目指す必要があるとの機運が高まったことから、平成23年9月に「第二次鹿屋市議会改革特別委員会」が設置され、平成25年4月1日に「鹿屋市議会基本条例」を制定し毎年議会報告会を開催している。

◆市政の課題等に対し参考になった点等

鹿屋市議会における、議会改革特別委員会を設置し、議会基本条例を制定した議会改革の取り組みで、特に議会報告会の開催目的や現状と実績では、議会事務局に頼らず、議員自ら市民が「見て・聞いて」わかり易い資料作りの工夫や、市内13会場（中学校区）で土日を除いた6日間開催、参加者増対策や市民との意見交換の在り方など今後の課題を含め八街市議会の議会改革協議会を通じて議会改革を進めていく上で大いに参考となった。

(2) 鹿児島県鹿屋市串良町柳谷地区（やねだん）
・行政に頼らない「むら」おこしについて

◆市の概要

鹿児島県の大隅半島、鹿屋市串良町柳谷集落、通称「やねだん」は、人口約300人、高齢化率40%の過疎高齢化の小さな村である。

◆視察時の状況

- ①視 察 日 平成28年 1月28日 (木)
- ②視 察 時 間 午前10時00分 ~ 午後 1時30分
- ③視 察 会 場 未来館 土着菌センター お宝歴史館
- ④対応者職氏名 鹿児島県鹿屋市串良町柳谷公民館長 豊重哲郎様
- ⑤説明者職氏名 鹿児島県鹿屋市串良町柳谷公民館長 豊重哲郎様
豊重哲郎様プロフィール

昭和35年 県立串良商業高等学校卒業。東京都民銀行入社
昭和46年 Uターンして串良町上小原でうなぎの養殖を始める。
昭和54年 串良町上小原校区公民館長（～平成9年3月）
昭和56年 うなぎ専門店「うなぎの川豊」創業
昭和60年 民間主導型「串良やったる会」結成
平成 8年 うなぎのエクス「ヘルプアイ」を独自に開発
村づくり活性化アドバイザー（～平成10年3月）
柳谷自治公民館長就任（現在に至る）
地域活性化の伝道師（内閣府）

柳谷町内会の主な受賞実績

- 平成14年 第8回日本計画行政学会「計画賞」最優秀賞受賞
- 平成17年 半島地域活性化優良事例受賞
- 平成18年 農林水産省 ムラと自然の再生賞受賞
県民表彰（社会活動部門）
南日本文化賞（地域文化部門）
- 平成19年 あしたのまち・くらしづくり活動賞 内閣総理大臣賞
総務省 地方自治法施行六十周年記念表彰
- 平成22年 第7回オーライ！ニッポン大賞 審査委員会長賞
第4回山カコンクール 審査委員会長賞

⑥写真添付



◆視察先調査事項の概要

鹿児島県鹿屋市申良長柳谷集落、人口約300人、高齢化率40%の小さな村の地域再生 行政に頼らない「むら」おこしを旗印に、住民共働で19年間継続中の実践についてを柳谷公民館長の豊重哲郎様の講話にてご教授頂き、八街市の街おこしの参考とする。

◆調査事項に対する会派視察目的

行政におんぶにだっこでは、人も街も育たない。地域の力を集結し、自分たちでできることは自分たちでやる。行政に頼らない「街」おこしの実践を参考にするため。

◆市政との関連性（視察地選択の理由等）

八街市まち・ひと・しごと創世地方人口ビジョンによると、少子高齢化とともに大幅な人口減が危惧されている。総合戦略にある「各世代の市民が安心して生活できる住環境づくりにより、特に若者世代が定着できる八街市を目指します。」とあります。地方創世が叫ばれている昨今、農業と畜産のほかに目立った産業はない人口約300人、高齢化率40%の小さな村が、いち早く地域再生に取組み、今もなお19年間継続、進化し続けるやねだんの取組みは八街市の街おこしへの取組に多くの気づきを得られることと期待し視察地として選択した。

◆市政の課題等に対し参考になった点等

地域再生への様々な取り組みの中で、①住民自治＝住民でできることは住民で ②自主財源確保＝活動の保全と担保 ③還元＝福祉、青少年教育。の基本的な考え方は行政に頼らない「むら」おこしの土台であると感じた。

やねだんの組織は自治公民館長を頭に、副館長・会計、監査委員を置き、事業部、畜産部、文化部、婦人部・壮年部、青少年育成部、高齢者部6つの専門部を置きそれぞれ年度予算を配分し横断的に関わりながら事業を勧めていた。

当時やねだんでは130戸から年間7,000円ずつ町内会費を徴収していた。年間約90万円となる。もし年間100万円の集落営農ができれば町内会費を収めなくても良くなる。そこで自主財源確保の一つに、休耕地を利用しさつまいも栽培に着手した。土着菌堆肥で栽培したコガネセンガンという焼耐用のさつまいもを使用し「やねだん」を醸造している。

地域の空家等を再生し、シニア子供館、未来館、土着菌センター、感謝の館、活動歴史館、ギャラリーやねだん、中尾工房美術館、宿泊・多目的施設に活用しており、八街市における空家対策にも多いに参考となった。

明日の地域リーダーを養成する「やねだん故郷創世塾」は過去18回合宿形式で開催され全国に700名を超える卒塾生が活躍している。第19回は平成28年5月20日（金）～23日（月）「3泊4日」で開催予定であり、やちまた21として参加を前向きに検討している。

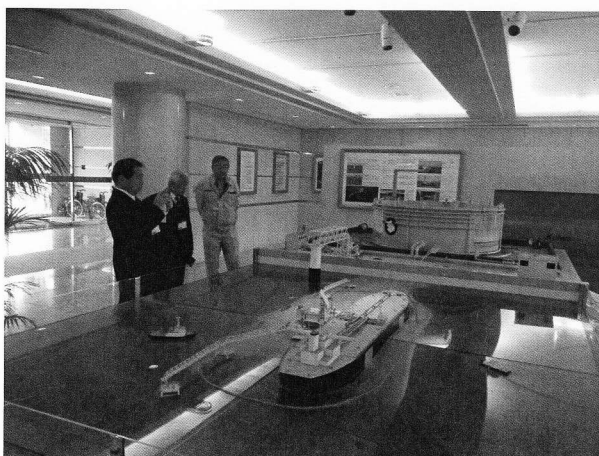
(3) 鹿児島県志布志市 志布志国家石油備蓄基地について

◆市の概要

志布志市は鹿児島県東部の市。平成18年1月1日に曾於郡松山町、志布志町、有明町が合併し、誕生した。市の南部は志布志湾に面し、国の中核国際港湾である志布志港が整備されている。志布志港からは、国内外へ複数の航路が設けられており、南九州地域での重要な役割を担っている。人口32,727人、15,791世帯（平成27年12月31日現在）

◆視察時の状況

- | | |
|---------|-----------------------|
| ①視察日 | 平成28年 1月28日 (木) |
| ②視察時間 | 午後 2時00分 ~ 午後 3時00分 |
| ③視察会場 | 志布志石油備蓄株式会社 |
| ④応対者職氏名 | 志布志事業所 総務課 課長補佐 北園敏郎様 |
| ⑤説明者職氏名 | 志布志事業所 総務課 課長補佐 北園敏郎様 |
| ⑥写真添付 | |



◆視察先調査事項の概要

国家石油備蓄基地は全国に10基地あり、1970年代の石油危機の教訓から、石油の供給量が不足する非常事態に備えて、国と民間石油会社でそれぞれ一定量の石油を備蓄している。現在、国家石油備蓄基地を中心に、5,000万KLを超える原油を備蓄している。志布志基地では、東京ドームの約42倍の広大な埋立地に、原油タンク43基の総容量502万8千KLを蓄えている。

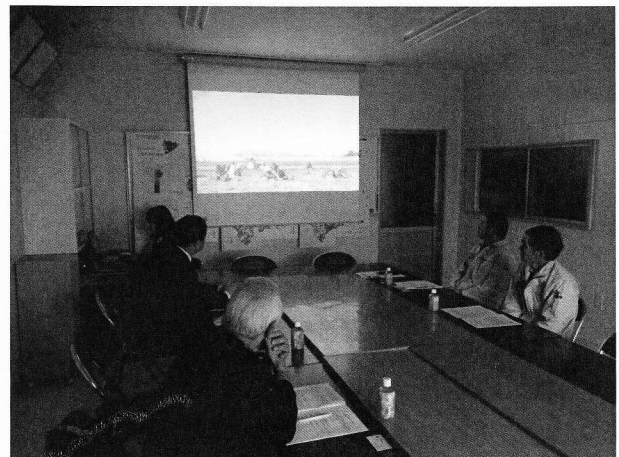
(4)宮崎県都城市 農事組合法人きらり農場高木
・農事組合設立の経緯と今後の展望について

◆市の概要

平成18年1月1日、都城市、山之口町、高城町、山田町、高崎町の1市4町が合併し、人口169,602人、総面積653.31平方キロメートルの新・都城市が誕生した。都城市高木地区は、西は霧島山系、東は鰐塚山系に囲まれた都城盆地のほぼ中央部にあり、標高130m程度に位置する平坦な水田地帯である。この地区は、西方から北方には大淀川が流れ、地区内には国道10号及び宮崎自動車道が、西側に国道221号が走っており、さらに、鹿児島県志布志までの高規格道路の計画もあるなど、交通の要衝となっている。また、昭和46年度から都城・北諸県を環状に結ぶ広域農道が整備されてきており、農産物輸送の効率化、迅速化に寄与している。高木地区の人口2,510人、1,061世帯（平成27年12月末現在）立地条件や交通条件の良さから今後の発展が期待されている。

◆視察時の状況

- ①視 察 日 平成28年 1月29日 (金)
- ②視 察 時 間 午前10時00分 ~ 午前12時00分
- ③視 察 会 場 農事組合法人きらり農場高木
- ④応対者職氏名 農事組合法人きらり農場高木
代表理事・組合長 松原照美様
- ⑤説明者職氏名 農事組合法人きらり農場高木
代表理事・組合長 松原照美様
- ⑥写 真 添 付



◆視察先調査事項の概要

農事組合法人「きらり農場高木」における法人設立までの経緯と今後の展望について

法人の概要

設立年月日	平成18年4月25日
構成員数	343名（うち1名はJA都城）
口数	39,005口（1aを1口）
出資一口の金額	1,000円
出資金額	39,005,000円
構成員の農地面積	203ha
役員	理事6名、監事2名

◆調査事項に対する会派視察目的

八街市における農事組合法人設立の可能性と、今後の地域農業の発展と農業経営、六次産業化の取組を視察する。

◆市政との関連性（視察地選択の理由等）

農業者の高齢化の中で、農家の後継者不足が懸念されている。休耕地の有効活用や六次産業化への取組み、集団転作のブロックローテーションの実際について視察するため

◆市政の課題等に対し参考になった点等

八街市における農業者の高齢化や後継者不足により、休耕地が増加傾向にある。新規就農に対する支援や観光農園事業により農業体験等をはじめこれに歯止めをかけるべく取組んではいるものの、根本的な解決には至っていない。

農事組合法人「きらり高木農場」の取組みは、当市における基幹産業である農業進行の一つの選択肢として、また、生産・加工・販売を含めた六次産業化は、今ある八街の良いものを再発見し、情報発信していくことは、誇りを持つ地域づくりに寄与すると思料される。今後の八街市における商業・工業・農業・福祉の発展に向け提案、実践に繋げていきたい。